

## 飼料作物奨励品種選定試験(3)

誌名	宮崎県畜産試験場試験研究報告 = Bulletin of the Miyazaki Livestock Experiment Station
ISSN	09187278
著者	鈴木, 淑恵 藤井, 真理 小畑, 寿
巻/号	17号
掲載ページ	p. 90-92
発行年月	2004年12月

## 飼料作物奨励品種選定試験

### (3) イタリアンライグラス

鈴木 淑恵<sup>1)</sup>・藤井 真理・小畑 寿  
(<sup>1)</sup> 東臼杵北部農業改良普及センター)

Selection of the Best Forage Crop in Terms of Their Nutrient and Yielding Performance  
(3) Italianryegrass

Yoshie SUZUKI, Mari FUJII, Hisashi OBATA

＜要約＞長期利用型のアキアオバ、ヒタチヒカリ、テティラ、3品種についてと短期利用型のワセ王について現奨励品種のエースとワセユタカとの比較試験を行った。

長期利用型品種では耐倒伏性の優れていたヒタチヒカリが有望と思われ、短期利用型では耐倒伏性と収量性で優れていたワセ王が有望であった。

#### 試験方法

1 試験圃場

場内圃場 (黒色火山灰土)

2 供試品種

表1に供試品種を示した

3 播種時期

長期利用型：平成15年9月20日

短期利用型：平成15年10月9日

4 播種量

250 g/a 条播

5 試験規模

1 試験区 6 m<sup>2</sup> 3 反復

6 施肥量 (kg/a)

たい肥 300

基肥 N:P<sub>2</sub>O<sub>5</sub>:K<sub>2</sub>O=0.9:0.9:0.72

追肥 N:K<sub>2</sub>O=0.36:0.32 (刈り取り毎)

7 調査日

長期利用型：H14.3.20 H15.5.1 H15.6.5

短期利用型：H15.4.9 H15.5.8

8 調査方法

系統適応性検定試験実施要領に準じる

表1 供試品種

品 種 名	取 扱 い	そ の 他
エ ー ス	雪印種苗	長期利用型・標準品種
アキアオバ	全農他	
ヒタチヒカリ	日本総業	
テ テ ィ ラ	全農他	短期利用型・標準品種
ワセユタカ	全農他	
ワセ王		

#### 試験結果及び考察

1 気象概要

平均気温は翌年の1月まで平年よりも低く推移し、その後はやや高めであった。降水量は12月に平年を大幅に上回ったが概ね平年並みとなった。日照時間

は期間を通して平年以下であった。

利用型では「ヒタチヒカリ」・「テティラ」>「エース」・「アキアオバ」という早晚性であった。

## 2 生育経過

播種後の気温が低くいもち病の発生は見られなかった。低温と日照不足から生育は鈍く、長期・短期利用型とも年内の刈り取りはできなかった。出穂は翌年の4月に入ってから始まり、短期利用型では「ワセ王」が「ワセユタカ」よりも3日程度遅く、長期

## 3 調査結果

表2・3に生育および収量調査の結果を示した。

長期利用型品種では5月に入ってから病害の発生が見られ、最終刈りの調査ではいもち病に対して「テティラ」・「ヒタチヒカリ」は抵抗性を示し、

表2 生育調査

品種・系統	初期生育	病害程度		出穂期	刈取り時出穂程度			倒伏程度			
		いもち病	冠さび病		春1番	2番草	3番草	年内	春1番	2番草	3番草
エース	8.3	3.0	3.3	4/27	1	4	8	1	1	3	1
アキアオバ	8.6	2.7	2.3	4/28	1	4	8	1	1	2	1
ヒタチヒカリ	9.0	1.7	4.0	4/22	1	7	9	1	1	2	1
テティラ	9.0	1.0	2.7	4/22	1	7	9	1	1	4	1
ワセユタカ				4/4	3	8	—	1	8	8	—
ワセ王				4/7	3	8	—	1	3	1	—

注) 発芽良否・初期生育：不良1～良9  
 病害・倒伏：無または微1～甚9  
 いもち病(長期)：H15.6.5 冠さび病：H15.6.5

表3 収量調査

品種・系統	草丈 (cm)			生草収量 (kg/a)			
	春1番	2番草	3番草	春1番	2番草	3番草	合計
エース	73	102	86	369	387	189	945
アキアオバ	77	113	89	459	399	195	1053
ヒタチヒカリ	82	109	92	454	377	183	1014
テティラ	87	104	86	484	335	172	991
ワセユタカ	120	101	—	723	242	—	965
ワセ王	125	89	—	603	193	—	796

※対標準比は標準品種の合計乾物収量を100とした時の値

乾物率 (%)			乾物収量 (kg/a)				対標準比 (%)
春1番	2番草	3番草	春1番	2番草	3番草	合計	
14.9	14.9	16.0	55	58	30	143	100
13.9	14.0	15.7	64	56	31	150	105
14.2	14.6	16.3	64	55	30	149	104
13.7	15.3	17.9	66	51	31	148	103
14.9	14.9	—	108	36	—	144	100
17.6	14.0	—	106	27	—	133	92

冠さび病に対しては「アキアオバ」・「テティラ」が比較的強い抵抗性を示した。

耐倒伏性は、「ワセ王」が「ワセユタカ」よりも優れており、長期利用型では「ヒタチヒカリ」が最も優れていた。

収量性は、短期利用型では「ワセユタカ」が優れ、長期利用型ではどの品種も「エース」を若干上回り、品種間差が見られなかった。

総合すると、短期利用型では収量性がやや劣るものの耐倒伏性に優れる「ワセ王」が有望である。長期利用型でも耐倒伏性に優れる「ヒタチヒカリ」が有望と思われたが、冠さび病の被害が大きかったため注意が必要と思われた。

長期利用型については今回が最終年度となり、これまでの結果とあわせて奨励品種選定の資料とする。